

地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ企画(2010年11月7日)

「NGOの時代は終わったのか 成熟するアジアの市民社会と日本のNGOの未来」

上智大学アジア文化研究所客員研究員 堀場明子

ワークショップの目的と成果

- アジアにおけるNGOの動向、アジアで活躍する日本のNGOの取り組みを検討した後、日本の国際協力NGOの現状と課題を日本の政治・社会的コンテクストの中で浮き彫りにする。
- 地域研究者と実務者の緊密な関係構築が国際協力に果たせる役割について議論できた。
- 研究者と実務者の新しいネットワーク構築の一つのきっかけとなった。

→JCAS社会連携部会・キャリア・デザイン・プロジェクトへつなげ、特に若手地域研究者と実務者との具体的な連携を模索中。

NGOの時代は終わったのか

— 成熟するアジアの市民社会と日本のNGOの未来 —

2010年11月7日(日)

10時～17時半(昼食時の懇親会含む)

場所：上智大学中央図書館L-912

*参加は無料ですが、グローバル・コンサーン研究所までお電話かE-mailにて事前登録をお願いします。



近年、アジアのNGOは、住民の声を代表し社会変革運動の担い手として、政府への政策批判を行う抵抗する団体から政府への政策提言を行う専門家集団として変容、さらには政治的な力を持つ勢力として台頭しているケースもある。また、国境を越えたネットワークを形成し自然災害や社会災害を乗り越えた経験、そして民主化を果たした経験、近隣諸国と共有しようという動きも見られる。アジアのNGOは、その力を確実に伸ばしている。

アジアのNGOの能力向上がみられる中で、日本の国際協力NGOの意義を問い直す時期にきている。現地で日本人がプロジェクトを実施する意義はあるのか。欧米の国際協力NGOとの戦略の違いは何か。社会的起業、企業のCSRが目目されるなかで、それらが担えないNGOの特別な役割は何であろうか。アジアにおけるNGOの現状を見ながら、日本の国際協力そのもののあり方を見直し、すでに行われている新しい取り組みや、国際協力NGOの現状を分析することで、今後の新しい役割を考えていきたい。

【プログラム】

第1部 報告「アジアにおけるNGOの現在
—成熟する現地の市民社会と日本の国際協力NGOの挑戦—」

日下部尚徳 (慶應女子大学南アジア研究センター)
堀場明子 (アンリッドウナン人権対話センター、上智大学アジア文化研究所)
山田裕史 (カンボジア市民フォーラム、上智大学アジア文化研究所)
鈴木直喜 (清泉女子大学)

ランチタイムフリートーク

第2部 討論「日本の国際協力NGOの現状と課題」

越田清和 (さっぽろ自由学校「遊」)
林明仁 (東京大学博士後期課程)
金敬熙 (中京大学)

第3部 討論「NGOの時代は終わったのか

—日本の国際協力NGOのコンテクスト化と地域研究の役割—」
西芳美 (立教大学)
藤島淑 (上智大学グローバル・コンサーン研究所)
石井正子 (大阪大学)

主催：上智大学グローバル・コンサーン研究所

共催：地域研究コンソーシアム、京都大学地域研究統合情報センター、
上智大学アジア文化研究所

後援・協力：上智大学グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻

お問い合わせ：上智大学グローバル・コンサーン研究所

千代田区紀尾井町7-1 Tel: (03)3238-3023 E-mail: i-glocon@sophia.ac.jp

